



ふくせんレポート

2026

9/7

第25号

1面	令和8年度 新理事長・新副理事長挨拶
2面	第7回福祉用具専門相談員研究大会
3面	バリアフリー 2026/令和8年度定時社員総会
4面	令和8年度ブロック活動実績

制度は現場のためにあるのだから—— 相談員の未来ある価値向上のために 仲間の声を集め、届け続ける

令和8年6月18日に令和8年度の定時社員総会および理事会が開催され、ふくせんは新たな体制でスタートいたしました。

新理事長には中川敬史氏が就任し、山下和洋氏が副理事長に重任するとともに、新たに大信田和義氏が副理事長に選任されました。新体制の発足にあたり、中川新理事長、大信田新副理事長より、就任のご挨拶を申し上げます。

中川理事長よりご挨拶



中川 敬史
(なかがわ けいし)
新理事長

日頃より当協会の活動を支えてくださる会員の皆様に、心より御礼申し上げます。そして、長年にわたり当協会の発展にご尽力いただきました岩元前理事長をはじめ、歴代役員の皆様に深く敬意を表します。岩元前理事長には、今後も理事として、また相談役としてご指導をいただくこととなりました。これまでの協会の歩みと理念を大切に受け継ぎながら、新たな役員体制のもと、会員の皆様とともに、ふくせんのさらなる

発展と、福祉用具専門相談員の価値向上に努めてまいります。

私は長年、福祉用具貸与事業に携わる中で、利用者やご家族、そして福祉用具専門相談員の皆様から多くのことを学んできました。福祉用具専門相談員は、福祉用具や住宅改修を通じて、利用者一人ひとりの身体状況や生活環境を踏まえ、地域包括ケアシステムを支える、極めて重要な存在であると考えています。

2040年問題を見据え、介護人材不足への対応や介護テクノロジーの活用など、我々の環境は大きく変化しています。そして福祉用具専門相談員には、より高い専門性と実践力、多職種との連携力、住環境全体を捉えた提案力が求められています。

制度や社会の課題を最も理解しているのは、利用者と日々向き合っている現場です。そして、制度は現場のためにある。私は、現場の声こそが協会にとつて最も大切な財産であると考えています。会員の皆様から寄せられる課題、経験や知見、地域での実践を丁寧集約し、調査・研究を通じて整理し、行政や関係団体との対話、より実効性のある政策提言へとつなげていくことが、全国唯一の福祉用具専門相談員の職能団

体であるふくせんの使命です。

職能団体として発言力を高めていくためには、より多くの福祉用具専門相談員の皆様に協会へ参画していただくことが欠かせません。ブロック組織未設置地域への活動の充実や、持続可能な事務局体制の構築など、協会の基盤も強化されていきます。

私が目指すのは、会員の皆様が「入っていて良かった」と実感できる協会です。学びがあり、仲間とのつながりがあり、自分たちの声が社会へ届いていることを実感できる。さらにこの専門性が広く認められ、より誇りの持てる職業となるよう、皆様とともに歩んでまいります。

大信田副理事長よりご挨拶



大信田 和義
(おおしだ かずよし)
新副理事長

福祉用具専門相談員として40年にわたり、利用者一人ひとりの暮らしに寄り添いながら、福祉用具を通じた自立支援と生活の質の向上に取り組んでまいりました。

これからは、長年培ってきた知識や経験を活かし、会員の皆様とともに、職能団体であるふくせんのさらなる発展と、福祉用具専門相談員の資質向上や社会的地位の向上に誠心誠意努め、貢献してまいります。